

八門遁甲成問鈔

村田敬典撰

全

と推して九二〇の如く孔の字を削るを嘗て云う。居、強功
を奉る世の如くを云う。事、修此四く修て則ち
孔明の遺徳を可く身ん出く事、人、此、修、徳と
も、修、徳、不、修、徳、か、大、主、人、子、を、修、徳、さ、う、回、く、事、修、之、を
世、修、徳、不、修、徳、か、大、主、人、子、を、修、徳、さ、う、回、く、事、修、之、を
世、修、徳、不、修、徳、か、大、主、人、子、を、修、徳、さ、う、回、く、事、修、之、を
世、修、徳、不、修、徳、か、大、主、人、子、を、修、徳、さ、う、回、く、事、修、之、を
世、修、徳、不、修、徳、か、大、主、人、子、を、修、徳、さ、う、回、く、事、修、之、を
世、修、徳、不、修、徳、か、大、主、人、子、を、修、徳、さ、う、回、く、事、修、之、を
世、修、徳、不、修、徳、か、大、主、人、子、を、修、徳、さ、う、回、く、事、修、之、を
世、修、徳、不、修、徳、か、大、主、人、子、を、修、徳、さ、う、回、く、事、修、之、を
世、修、徳、不、修、徳、か、大、主、人、子、を、修、徳、さ、う、回、く、事、修、之、を
世、修、徳、不、修、徳、か、大、主、人、子、を、修、徳、さ、う、回、く、事、修、之、を

辛巳行言 未出書主文法

八門連甲或問鈔

目錄

- 連甲三才之圖
- 連甲八門之圖
- 連甲要領
- 上等象天列九星之解
- 中層象人開八門之解
- 下層象地定八卦之解
- 本命元辰之解
- 相生相尅之法

○軍陳中文兩星之蓋

○北斗本命星之訣

○北斗元辰星之訣

○本命元辰操撮之圖解

○北斗月建之解

○北斗劍鋒捷法

○北斗劍鋒卷員日辰之圖解

目錄終

八門遁甲或問鈔

伊藤 必 守 仙 翁 蜀

伊藤 必 守 仙 翁 蜀

諸葛孔明 原選

日本 村田 穰 典 撰釋

遁甲三才圖



通甲八門圖

坤 三宮天內 死門	兌 三宮天柱 驚門	乾 六宮天心 閉門
離 九宮天英 景門	震 三宮天衝 福門	坎 一宮天蓬 福門
巽 四宮天輔 社門	艮 三宮天衝 養門	艮 三宮天衝 生門

○通甲要領

管ヲ問フ人アリ、八門通甲ノ法ハ、世行出陣等、
 專々用ナルノ法ニシテ、和漢諸ノ軍記、中ニ通
 甲ノ事、及ビ本命元辰星ノ事多ク見ヘタリト雖
 凡、其法ヲ了解スル人ハ稀ナリ、和漢ノ名將軍陣
 中ニ於テ、宛瀛ノ路ヲ、通甲ノ生門ニ向テ、忌難ク
 免レシ事、何ノ秘術・タマ有リヤ、答テ曰ク、通甲
 トハ、福生養社營死驚閉ノ八門ナリ、是ハ東西南
 北、卯寅辰巳未申戌亥ノ八方ニ出行スル也、其日
 ノ十干十二支ニ依テ相違アリ、福生營閉ノ當ハ

方ハ出行スルバ吉ナリ、數社ニ當ル方ハ出行ス
ルバ半吉半凶ナリ、天變ニ當ル方ハ出行スルバ
大山ナリ、千數年諸人ノ違テ旅行シテ或ハ災難
ニ遇キ或ハ死亡スル人ヲ聞及ビテ、出立ノ日ヲ
考ルニ、多ク皆死門驚門ニ向テ出行シタル人ナ
リ、災難ニ違テ事ハ時節因縁トハ云ナゴロ、遺甲
ノ法ニ依テ方角ノ吉凶の中ニモ亦奇トクモ
々、本命元辰星ハモト北斗ノ七星ナリ、然ルニ此
七星ノ中ニ各所生ノ星アリ、是ヲ本命星ト云フ、
又元辰星ト云フハ、本命星ヲ生スル所ノ星ナリ、

案トシテ、左ニ舉テ之ヲ示サン、
遺甲奇門ニ曰ク、遺甲ノ法ニ三重アリ、三才ヲ象
ルニ上層ハ入ヲ象テ九星ヲ殞テ、中層ハ人ヲ象テ
八門ヲ開キ下層ハ地ヲ象テ八卦ヲ定ム、コレ天
入地ノ定位ナリ、乙ヲ日奇トシ丙ヲ月奇トシ、丁
ヲ星奇トシ、戊己庚辛壬癸ヲ六儀トシ、甲ハ用キ
ズト雖モ天乙貴神トス、常ニ六儀ノ下ニ隱レテ
其發用ヲ爲ス、故ニ之ヲ遺甲ト謂フナリ、又同書
ニ出征ノ呪隱身ノ呪淨解ノ呪、下知ノ呪、秘傳
アリト雖モ是ハ軍用ナリ、遺甲ハ惟方角ノ吉凶

依テ三宮ニ災アリ、三宮ハ木正東室、八卦ニ在テ
震位分野ニ於テ天衝星ナリ、此木運不及ノ年ハ
木弱ク金勝テ、冷風霜雪ヲヨケレバ、必々火燃流
火噴、或ハ火ノ仕復アリ、又木氣ノ鬱發ト云フ
トアリ、其水鬱ノ發セントテハ必々風ミトキニ
草樹ニ柔テ草ノ葉凋落シ、自ラ風聲アルハ、木鬱
ノ發セントテノ形ナリ、已ニ木鬱ヲ發メシヤ、
滅立トテ、林檎墜テ、大風起テ家ヲ破リ、木ヲ折リ、
或ハ塵埃空ニ散ヒテ大霧ノ鬱、或ハ積雪積レテ及テ雨
降ズ、其災ハ東方ニ在リ。

少微歳トハ癸丑卯巳未酉亥ノ年ニ當リ、此運不
及ノ年ナリ、災九宮トハ皆庚氣ノ虛ニ依リ九宮
ニ災アリ、九宮ハ火正南室、八卦ニ在テ離ノ位、分
野ニ穴ヲ天英星ナリ、此火運不及ノ年ハ、時ナラ
ズシテ寒氣、薄氷ナレバ、暴雨霹靂降ル、此ハ火弱
ク水勝テ土ノ仕復ナリ、又火氣ノ鬱發ト云ツテ
アリ、其火鬱ノ發セントスル時ハ、必々雷雨ノ如
クナリ、赤氣空中ニ鬱フテ、天日モ明ラカナク、
炎焰ノ如クナル大暑行レ、山澤燥ガ如クニシテ、
草木ニ津ヲ出シ、變燥焦枯シテ、天地ノ間、燥熱ス

ルニ等シク、強強コリ、煙煙立チ地上白氣ヲ帯ビ、地地
水波ニナリ、風風盛ニ吹キ、雨雨暴時節ニ後シ、夜夜半過ハ
通常冷カナルモノナルニ大ニ温カニレテ、人々
汗ヲ出シ、地地温當處ニ世ニ頓死ノ人多シ、其其災ハ
南方ニ在リ、

少宮成トハ己卯己未酉亥ノ年ニ當ル、土運不
及ノ年ナリ、災五宮トハ皆成氣ノ處ニ依テ五宮
ニ災アリ、五宮ハ土正中室ナリ、分野ニ就テハ天
禽星ナリ、土ハ中央ヲ主シ、四難ニ寄ルト難及、位
ヲ洛書ニ於テハ二宮ナリ、八卦ニ在テハ坤位ニ

寄リ、スルナリ、此土運不及ノ年ハ、土幹ク木勝ガ
故ニ風吹キ起リテ、萬物ヲ摧折スル時ハ、必ズ金
ノ仕度アリテ、冷冷氣行ヒ、草木ノ凋枯、呼呼零スル
アルベシ、又木幹チ土貢ムカハ、土氣ノ鬱積ト云
フヲアリ、其土鬱ノ發セントテハ、必ズ雲烟天山
ニ横ハリ、地地多ク生ズルハ、土鬱ノ發スベキ
ナリ、己ニ土鬱ノ發スルズ、雲霧北ニ奔リ、初初震是
ノ深深味、岩石ノ間震動シ、六七月ノ間雷鳴コトナ
リ、山山澤ニ黄黄黒色ナリ、埃埃霧ノチケテ、日光ヲ遮遮蔽シ、林林
ニ嵐トナリ、山谷ノ間ニ風雨ヲコトシテ、山山岸崩

レ水、流レ田、潤シテ、而レテ後ニ雨、澤、潤シ
テ時ニ應ズ、其災ハ中央ト未申ノ方ニ在リ、

少陰、歳トハ己未酉支ノ年ニ當ル、全運不

及ノ年ナリ、災七宮トハ皆歳氣ノ虛ニ依テ七宮

ニ從マルナリ、七宮ハ金正西室ナリ、八卦ニ在テ

ハ兌ノ位、分野ニ於テハ天柱ノ位ナリ、此金運不及

ノ年ハ金弱キガ故ニ火ノ氣勝テ炎熱サカシム、

燥爛スルガ如クナレバ、必ズ水ノ位復アリテ、時

ナクヌ、水ノ氣復行シ、冬ノ氣盛タルテ大寒アリ

又金氣ノ鬱積ト云フコトアリ、其金鬱ノ發セント

テハ必ズ露、雨、霜、雪、草木ノ間ニ風吹キ鳴

スハ、金鬱ノ發スベキ也ナリ、己ニ金鬱ノ發スル

ヤ、八月ノ中秋分後ニ天地清、潔、大ニ涼、氣ヲ含シ、

燥熱行レテ露、霜、雪、草木乾、燥シテ、面霜、雨、シテ

涼風、萬物ヲ吹、動ス、其災ハ西方ニ在リ、

少陰、歳トハ辛丑卯己未酉支ノ年ニ當ル、水運不

及ノ年ナリ、災一宮トハ皆歳氣ノ虛ニ依テ一宮

ニ從アルナリ、一宮ハ水正北室ナリ、八卦ニ於テ

ハ坎ノ位、分野ニ在テハ天蓬星ナリ、此水運不及

ノ年ハ、水寒ノ氣弱ク、土濕ト火陽トノ二氣、力カ

社門トシ、木申ヲ死門トシ、酉ヲ墜門トシ、戌ヲ
開門トシ、是八門ノ内ノ一圖ナリ、管ハ別ニ口校
ノ書ナリテ、述ノ義ヲ見ル法、天ノ氣ヲ見ル法等
アリテ、又其道ニ入ラザレハ、曉レ難カルベシ、故
ニ撰テス。

○下層地定、八卦之解

八卦ヲ定ムトハ、乾、兌、離、震、巽、坎、艮、坤ノ八卦ヲ直
チニ二十四氣ニ配スルナリ、坎宮ハ冬至小寒、大
寒ナリ、艮宮ハ立春雨水、驚蟄、春分、清明、穀
雨ナリ、巽宮ハ立夏小滿、芒種ナリ、離宮ハ夏至小

暑、大暑ナリ、坤宮ハ立秋、處暑、白露ナリ、兌宮ハ秋
分、寒露、霜降ナリ、乾宮ハ立冬、小雪、大雪ナリ、此ニ
十四氣ノ中、冬至コリ後ノ十二氣ヲ陽進ト云フ、
是冬至ハ一陽來復ノ時ニレテ、次第ニ陽氣集
スルガ故ナリ、夏至コリ後ノ十二氣ヲ陰進ト云
フ、而シテ陽進ハ陽進ノ陰進ハ陰進ト云フ、二道各
選テ相為レ、諸氣一調レテ、八卦ノ象事備ルナリ、

○本命元辰之解

劉伯溫奇門遁甲一曰、常把將之本命元辰之兩
星、在何宮、則勝敗在掌裡、必決也。

解曰、本命を辰トハ天文家説。曰クモト北
斗ノ七星ナリ然ルニ此七星ノ中ハ各所生ノ星
アリ是ヲ本命星ト云フ又元辰星ト云ハ本命星
ヲ生ルル處ノ星ナレバ最モ此二星ノ校和セザ
レバナラヌヲナリ然ルニ此二星其人ノ生年ト
當年トノ二星ノ相生相克ナリ其生運ハ強又
ハ當年ノ吉凶ヲ考ルルニ影響モ達マラナレ此北
斗ノ七星ハ紫微宮ノ西垣ノ外大微宮ノ北ニ在
リ是ヲ我朝ニマハ北斗ト云フ天文志曰ク一
ヨリ四マダヲ魁ト名ケ瓊瓊トス五ヨリ七マダ

ヲ玉衡トス

天文家説曰ク北斗七星者第一貪狼星爲十第
二巨門星爲廿五第三禄存星爲寅戌第四文曲星
爲卯酉第五廉貞星爲辰申第六武曲星爲己未第
七破軍星爲午是也

北斗起命經曰ク七星乃七曜變七星既五行大
者貪狼水者巨門火者禄存水者文曲土者廉貞木
者武曲金者破軍是也

解曰ク北斗ノ七星ハ即チ七曜ノ變現ナリト
北斗起命經ニ説ク玉ハ一又七星ヲ五行ニ配ス

ル一此ノ如シ、此五行ニ配スル所ヲ能ク考ヘ知
ルベシ、是レ本命元辰ノ^{占訣}根元タリ、此五行
ニ依テ二星ノ相生相尅ヲ知リ、吉凶ヲ分クナリ、
天地ノ生ズルヲ萬物一トシテ五行ニ由ラザル
ハナク、人間ノ根元皆五行ニ依テ生ズルナリ、

○相生相尅之訣

水生木 木生火 火生土 土生金 金生水

水尅火 火尅金 金尅木 木尅土 土尅水

解ニ曰ク、水生木トハ、水ハ木ノ母ナリ、水ツケレ
バ木樹ニ潤フ代リタル木モ水ニ浸レ置テバ斂

ク生シ居ヘ、又諸木ノ葉ヲ見ルヘ、未ダ熟マザル

前ハ皆水ナリ、諸花モ同ク、採破レバ皆水ナリ、コ

レ水生木ノ理ナリ、○木生火トハ、木ハ火ノ母ナ

リ、木ヲクテハ火ノ燃ルコトナレ、木盡レバ火消ユ、

又深山ニハ諸木風ノ爲メニ聲レ合フテ火出ル

是レ水生火ノ理ナリ、○火生土トハ、諸ノ物燃ル所

ハ火ナリ、消テハ則チ灰トナル、是レ灰ト土トハ

一體ナリ、故ニ火生土ト云フ、人或ハ曰ク地震ヲ

時、破裂レテ火出ルコトアリ、是レ火ノ土中ニ合

ムルナリ、何ゾ土生火ト謂ハザルト、其説理アル

○欲タレバ、極メザルモノト謂フ可シ。○土生金
トハ、金ハ土ヨリ生ズ、木朝ニモ、金山ナリ是レ土
生金ナリ、然レモ人亦曰ノ前ノ土生火ヲ非トナ
サズ、何ノ土生木ト謂ハザル、夫金ハ何レノ土地
ニ生ズルモ、モノナラズ、木ハ至ル處ニ生ゼザル
ハナレト、其理至極セラト雖モ、木ハ水ノ生ズル
所ニレテ、何ノ兩母アラン、水ハ金ハ諸ノ處ニ生ズル
多ハレテ、沙石ニ亦生ズ、即今ナリ、何ノ必ズレ
モ、金ハ何レノ地ニモ生ズルモノナラズト謂ハ
ンヤ、是レ土生金ノ理アルト明セナリ。○金生水

トハ、金ヲ火ニテ長レバ、上ニ水行ク、是レ金生水
ナリ、又金石一體ト云フ説アリ、喻ヘバ井ヲ掘ル
ニ底ニ至テ沙石ニ掘當テ水出ル故ニ金生水ト
云ヘシ。○水尅火トハ、水ヲ注サバ火消ル、明ク
カナリ。○火尅金トハ、火能ク金ヲ解ス、是レ火
尅金ノ理ナリ。○金尅木トハ、金能ク諸木ヲ截
ス、故ニ金尅木ナリ。○木尅土トハ、木ヲ植ント思
フ時ハ、先ヅ木ヲ植ル體ノ脚土ヲ穿テ氣ハ是レ
木尅土ナリ、又水ヨク土ヲ墜ス、又諸木ヨク根ヲ
諸方ヘキス、皆木尅土ノ理ナリ。○土尅水トハ、水

コノ川海。清々然レハ境ヲ察々之ヲ理ヒバ流
レ浸ヌテ能ハズ是ハ土ハ水ニ能ク理ナリ又水
ト水木ト木火ト火金ト金土ト土トハ是ハ比和
ヌムト云フ梅花心易ニ比和ハ諸事吉ナリトテ
此生尅ノ理ヲ能ク明クメテ本命元辰兩星ノ
吉凶禍福ヲ察スベシ

○軍陣中考兩星之證

白起者魏人也善用兵事秦昭王昭王十三年而白
起爲左庶長其後攻魏拔之取城小大六十一平常
在軍中先考敵將之本命元辰之吉凶而後發兵到

處擊或稱之下既陰謀

太公望曰自本命者必真元辰有元辰者有本命是
兩星大相輔於吉凶禍福者也

張子房曰本命元辰之兩星也其決將之存亡吉凶
凶禍矣五七

魏大將軍司馬懿在軍中若將向敵不意進先龍科
他本命元辰吉凶

韓信當推計他七星相生相克而進矣

諸奇佛前立三牌其一牌之中央者今上皇帝聖
躬萬歲其一牌之左者南方大德星君其一牌之右

車去エ、城内ノ兵ハ羽林ノ車去ト沙汰シケルモ、
例ナリ、嫌疑吏ニ不熟ヤガテ神門郡ヨリ臨陣衝
出ノ時ヲ生死ノ誓ヲ問ヒケルニ、地水部ノ卦ヲ
得、タリ、易云或舉尸山、コレ易ノ辭山ナリ、亦星ヲ
以テ之ヲ占テ、本命元辰在辰、當月十四日ハ甲
辰ノ日ナリ、一定敵ノ大將羽林ノ車去、疑ハ所ナ
レト答ヘケレバ、城中勇衆ヲ發シ、死地ニ大川ニ
飛ビ如ク、雖モ唯テ喜ビケル、古々如ク、本命元
辰ノ事ハ軍記等ニ出タリ、楊氏ハ別シテ知ズン
バ有ニベカラズ、諸寺ノ佛前ニ在ル三牌、大摧

那本命元辰ト書シテ其故ヲ人問ハマ如何答ヘ
シヤ、況ンヤ上農工商ノ輩ニ於テナリヤ、

○北斗本命星之訣

本命星ハ者、子感生、是食狼星、丑亥感生、巨門星、寅
戌感生、祿存星、卯酉感生、文曲星、辰申感生、廉貞星、
己未感生、武曲星、午感生、破軍星也、

解ニ曰ク、本命星ト云ハ、譬ヘバ子ノ年ノ生ノ人
ハ貪狼星ヲ本命トスルナリ、又午ノ年ノ生ノ人
ハ破軍星ヲ本命トスルナリ、

○北斗元辰星之訣

本命元辰操操之圖



元辰星者其考法以十二支分陰陽子寅辰午申戌
 是陽歲也丑卯巳未酉亥是陰歲也陽八陰六以見
 其星如陽歲自本命星十二支後數當八者為元辰
 星如陰歲亦順數當六者為元辰星也

解一曰元辰星ト云ハ其考法十二支ヲ以テ陰
 陽ヲ分テ譬ヘテ子寅辰午申戌是陽歲也卯巳未
 酉亥是陰歲也陽八ハ陰ハ六トナリ以テ
 其星ヲ見テ陽歲ノ如キ本命星ノ十二支ヨリ順
 ニ數ヘテ第八ニ當ルモノヲ元辰星トス又陰歲
 トハ順ニ數ヘテ第六ニ當ルモノヲ元辰星トス

此圖ノ採擇ハ前ニ導レガ如ク陽成ハ八ツ目陰
成ハ六ツ目ニ當ル所ヲ以テ元辰星ヲ知ルナリ
設今ハ陽成ノ例ノ如ク明治十四年ニ三十歳ニ
ナル人ハ十年ノ生レナリ故即チ本命星ハ食
宿星ナリ此星ヨリ順ニ數ヘテ八ツ目ニ當ル所
武曲星ナリ是ヲ元辰星トス然レバ此人ノ一生
祖ノ禍福ハヨコレケ生贖ナリ兩星トモニ吉星
ニシテ其上貪狼ハ五行火ニ屬シ武曲ハ五行木
ニ屬ス此元辰星ヨリ本命星ヲ水生火ト相生ク
故ニ吉ナリトス又當年星ハ右三十歳ニナル人

ハエ木性ナリ而シテ此本命星ノ貪狼ヨリ順ニ
三十ツ數ムレバ武曲ニ至ル是ヲ當年星トナス
武曲ハ五行木ニ屬ス是其人ノ性トハ木ト木ニ
テ相比和スル故大吉ノ年ナリ深キ占考ノ法ハ
世論談ト稱スル故敢テ討論スルトモ成リ難シ
又陰成ノ例ノ如キハ明治十四年ニ二十一歳ニ
ナル人ハ酉ノ年ノ生レナリ即チ本命星ハ文曲
トス此星ヨリ順ニ數ヘテ六ツ目ニ至ル西極
存星ナリ是ヲ元辰星トス餘ノ例之ニ準テ
シ

本朝、俗易者流、每年元辰、五行ノ星ト、日曜月
曜ト、臨臨計都此九曜星、以テ吉凶ヲ告メ者多
シ、特ニ羅喉、計都、山トス、火曜之一次、歷代天
文ノ書ニ此羅計ノ二星ヲシト或書ニ云ヘリ、然
レニ、鍾會ノ將軍、魏懿公傳工康定ノ計、大羅計
二星ノ像ヲ造ラシム、又廣博物志曰、羅計二星人
多、感之、然レバ其說既ニ久シ

○北斗月建之解

天象分野之圖曰、北斗七星在、掌微宮、西垣、外垣、微
宮之北、七政之樞機、陰陽之本元也、故選乎天中而

臨制四方、以建四時、而均五行也、一曰權、爲天、正星
主陽德、天子之象也、二曰璣、爲地、法星、主陰刑、女主
之位也、三曰璣、爲人、令星、主機責也、四曰權、爲時、伐
星、主天刑、伐無道也、五曰玉衡、爲音、殺星、主中央四
方也、六曰開陽、爲律、危星、主天食、五穀也、七曰搖光、
爲星、邪星、主兵、一名搖星也、又此搖光、爲破軍之劍、
隣、而、詳、論、星、對、星、人、是、向、之、則、百、事、爲、不、利、故、坐、
則、每、多、災、向、于、劍、鋒、矣、

凡、破、軍、ノ、劍、鋒、ハ、常ニ、覆、一、提、ハ、故ニ、其、方、時、々
ニ、シ、テ、替、ハ、每、日、沿、時、一、劍、鋒、ノ、指、ス、方、ヲ、以、テ、月

建ヲ知ルベシ、正月（舊曆ヲ以テ）黃昏ノ如キ
ハ寅ノ方ヲ指ス、故ニ正月ヲ寅ノ月トス、二月黃
昏ニハ卯ノ方ヲ指ス、故ニ二月ヲ卯ノ月トナス
是ヲ月建ト謂フナリ、往昔唐虞ノ時代堯ノ如シ、
而シテヨリ以來天授成曆ヲ無盡ナリ、相積ル
又アリナメアリ、今正月昏ニハ子ノ方ヲ指ス、
二月昏ニハ丑寅ノ方ヲ指ス、大抵正月ヲ子トシ
二月ヲ寅トシテ可ナラザカ

○北斗星測緯法

每月數加四計於其時假如正月酉時則正月一數

加四共得五却從百五數當其方是也、餘亦數之、
廣博物志曰、北斗七星其間相去九千里、其二陰星
不見者相去八千里也、共是九星運乎天中而照測
四方以建四時、其二陰星者洞明星是輔星之魂也、
也、隱元星是弼星之魂也、

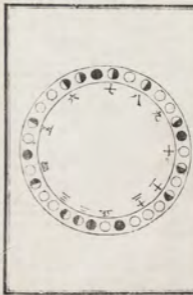
○北斗測緯法負日取之圖解

● 斗星ハ掛之體ト云フ

○ 白星ハ掛之體ト云フ

● 黑星ハ可也也、假令、不可向日也、

是民間所用之圖也、



此圖ノ操法ハ其月ノ頭ヲ一日トシテ右ノ順ニ
 數ヘ其當日ノ色ヲ以テ掛待ノ勝負ヲ知ル可キ
 假令バ三月十八日ハ半黒星ノ日ナリ八島ニ於
 テ源氏ハ掛之勝ナリ平家ハ待之負ナリ又六月
 二日ハ半黒星ノ日ニアタテ信長待之負ナリ明
 智ハ掛之勝ナリ又六月十二日ハ半黒星ノ日ナ
 リ明智ハ待之負ナリ秀吉ハ掛之勝ナリ斯ノ如
 ク深ク考ヘ知ルベシ諸人平當之ヲ考ヘ諸般ノ
 吉凶勝敗ヲ知ル可キナリ
 又胡ヲ曰ク此逆甲本命元辰壯平日取ノ秘法ハ

素素下谷四斗十(號)既既既

異朝。起リレハ、何ノ世ニ在リヤ。又吾朝ニ傳
ハレルヲ、何ノ世ニ傳來シタルヤ。答テ曰ク、異朝
ノ書ヲ按ズニハ、道甲於術ノ類ハ、察ト道家ヨリ
出セルトシ、此事黃帝老子ニ始リシヨレト言ヘ
ドモ、然レバ、漢ノ代ノ末ヲカタヨリ、此事起リテ、
後魏ノ代ニ至テ盛ニ成レトゾ、隋書ニ見ヘタリ、
此方術吾朝ニ傳ハレルヲハ、人皇三十四代推古
天皇十年、百濟ノ僧觀勒ト云ルモノ來テ、明本及
ビ天文地理ノ書並ニ道甲方術ノ書ヲ獻リシニ、
書生三四人ヲ撰テ、觀勒ニ學バシメテ、レシト云

フ、日本書紀ニ見ヘタリ、其後世ニ傳フル所ニ、
天文博士安倍晴明、陰陽ノ學ヲ究メテ、兼テ又符
術ヲ喜タス、後五世ノ孫春親、又其祖ニ學ザザリ
シヨレ云ク、斯ル故ニヨリ、凡ニ後ニ世ニ至テ
ハ、此術專ク陰陽道ノ業トナリテ、最モ秘訣ト稱
スル故ニ、此方術ヲ知ル人亦タ稀ナリ、

明治十四年七月六日御届
同 年十月 出板

東京府士族

通稱人

村田 徹典

下谷區下谷練馬所
六十三番地

東京府平民

小林 米造

淺草區浅草橋通
十六番地

出板人



明治十四年七月六日御届
同 年十月 出板

東京府士族
通稱人
村田 徹典
下谷區下谷練馬所
六十三番地

東京府平民
小林 米造
淺草區浅草橋通
十六番地

